

第2回呉市立地適正化計画検討委員会 摘録

- 1 日時 平成30年1月12日（金）14時00分～16時00分
- 2 場所 呉市役所本庁舎 7階754会議室
- 3 概要・骨子

呉市立地適正化計画（素案）について （○：委員，●：事務局）

1 呉市の現況と課題について

- 呉市の現況と課題の整理の仕方について、将来人口以外にも平成47年を見据えた将来推計が必要ではないか。
- 国交省の示す立地適正化計画作成の手引きに基づき、都市全体のマクロ的な考え方として、まず現況を整理している。その後、地域別のミクロ的な分析において、将来の人口配置から施設配置等（誘導施設）を検討する。
- 特に、現在策定中の地域公共交通網形成計画における交通の見通しについて検討する必要があるのではないか。
- 交通に関しては、現在地域公共交通網形成計画を策定中であり、策定の進捗状況に応じて、現状の分析にフィードバックする予定。
- にぎわいと交流の統計データの読み方について、大和ミュージアムからの人口流動の波及が見られないという分析になっているが、統計的検定の結果をみると、主要観光地間では緩やかな相関がみられる可能性があるが、観光地域間のネットワークが都心部の中心市街地へ波及していないというふうに整理したほうがよいと思う。
- ご指摘のとおり、記載方法について検討する。
- 出生に関して、呉市は男性の未婚率が高く、男性が結婚しづらい環境であると言える。また、九州や東北の社会経済特性と出生の関係性から、女性が地域にとどまることが、男性が結婚できることにつながるということがわかっている。男性の未婚率が高いということは、女性が地域に留まっていないことが考えられる。
呉市の現状として、呉市に残った女性は、結婚力の低い男性と結婚することになるため、晩婚化が進み、第一子が遅れることで、出生率が低下していることが推察される。

このことから、男性の未婚率と女性の未婚率に差が生じていることは、出生に大きく影響していると考えられるため、課題として捉える必要があると思われる。

- (委員会後の検討により,) 課題として、計画内に追加記載することとする。
- 人口動態に関して、主な転出理由として「仕事」となっている。「結婚」を理由として、転出していることがないかを把握する必要もある。
- 20～24歳の女性の主な転出理由の内訳は、「仕事」が26.5%、「婚姻関係」が15.2%で2位となっている。こうした状況を踏まえ、呉市まち・ひと・しごと創生総合戦略及び人口ビジョンにおいても、若い女性に住み続けてもらえるまちづくりを進めている。立地適正化計画においても、若い女性を含む若年世代の定住を促進するまちづくりを進める。
- 第1子の出生率低下の要因として、若い夫婦世代が定住しやすい環境を求めて転出し、出産していることも考えられるため、若い夫婦が第1子出産時あるいは結婚時に転出していないかを確認する必要がある。
- 土砂災害に関して、今後誘導区域に指定する可能性があるのであれば、「土砂災害の危険性のある区域」では表現がきつい印象がある。
- (委員会後の検討により,) 多少表現を抑える。
- 交通に関して、高齢化率の上昇に伴い、公共交通の分担率が増加していることが想定される。そのため、P5のポイントの記載で、公共交通利用者の減少によるサービス維持の困難化だけではなく、高齢化率の増加に伴う将来の必要性についても記載してもいいかと思う。
- P5のポイントについて、将来に渡って公共交通をどのように維持するかの観点でみると、高齢化に対してどのような公共交通サービスが提供できるかが重要となる。バス等については、高齢者が気軽に出かけられる公共交通網の形成に取り組んでいる。上記視点を、盛り込んでほしい。
- (委員会後の検討により,) ご指摘のとおり、ポイントの部分に高齢者について追加記載する。

- 観光に関して、分析に記載されていない島しょ部等についてもうまく活用し、呉市全体の回遊性を高めるイメージがあってもよいのではと思う。中心部以外についての記載があってもよいと思う。
- ご指摘のとおり、島しょ部等についても追加記載する。

- 子育てに関して、女性の購買力は非常に高いことも鑑みて、女性の労働力の確保、就労支援はとても重要であると考えられる。そのため、女性の就労しやすい環境を整備していくことが重要。まず、第一子の出産を機とした転出に歯止めをかけると共に、将来において女性が子育てしやすい社会の構築が必要。

- 子育て施策に関して、他の意識調査を見ると、第一子の出生には、男性の育児参加に相関がみられるため、ソフト面の対策（ワークライフバランス等）を必要であると考ええる。

- 空き家に関して、異世代同居を目的とした下宿利用の事例が見られる。空き家の安全・安心とあわせて、異世代交流を通して、呉市の生活の魅力の発信として活用できないかと思う。

- 子育て関連施設に関して、幼稚園・保育所等の適正配置は進められているが、0～2歳のご家庭の7～8割は、家庭保育されている。バギーをおしていける距離に、子育て交流ができる場の確保が重要。施設整備ではなく、既存施設を活用した子育て交流の場を確保してほしいと思う。

- 子育てに関して、第2子と第3子の出生と女性の就業率は大きな相関がある。また、女性の就業率は、保育所の整備水準と連動しているため、女性の働きたいニーズとそれを実現するための子育て環境の確保は重要。

- 女性の働く場所に関して、商業やサービス業が集積する中心市街地が想定され、中心市街地の整備は女性をとどめる、出生率を上げるために重要。加えて、呉市には女性の働く場所として、「観光」「医療福祉」もある。女性の働く場、子育てしやすい環境を確保することで、女性が地域にとどまり、男性の有配偶率も上がる好循環を目指すこと

が重要。

- 都市施設に関して、都市基盤の効率化の観点から、各地域の都市施設の維持コストの状況把握し、誘導区域設定の検討材料としてもよいのではないか。
- 現在策定中の公共施設総合管理計画において、個別計画が策定される予定となっている。都市基盤のコストについても、関連計画の進捗状況に合わせて可能な限りミクロ的な分析を進めることを検討する。

2 立地の適正化に関する基本的な方針について

- 市独自区域設定の理由はなにか。理由を明記する必要があるのではないか。
- 近年の立地適正化計画策定の動向をみると、誘導区域外では、切捨てではないかという誤解が生じている。誤解を払拭するとともに、今後も各拠点を維持し、これまでどおり暮らし続けてもらえることを市民の方に知ってもらえるように市独自の区域を設定した。その旨を計画書内に明記する。
- 計画書内の表現に関して、拠点と区域の関係がわかりにくいため、わかりやすく修正してほしい。
例えば、都市計画マスタープランの将来構造図に誘導区域や市独自区域を重ね合わせれば、区域と拠点の関係がみやすくなるのではないか。
- ご指摘のとおり、表現方法について検討する。
- 誘導区域のイメージに関して、示されているパターン以外にも想定される為、バリエーションを増やした表現に修正したほうがよいのではないか。
- ご指摘のとおり、想定されるバリエーションを追加し修正する。
- 一般居住区域及び生活機能維持区域は居住誘導区域外に指定されるということか。また市独自区域における、具体的な規制等はあるのか。
- 生活機能維持区域については、居住誘導区域外とまでは位置づけていない。居住誘導区域内に指定される可能性もある。また独自区域に

については、規制等は考えていない。あくまで現状の都市機能・居住が集積する場としての位置づけをするもの。

- 方針3の公共施設に関して、持続可能なサービスの提供の観点から、統廃合等の踏み込んだ記載が必要ではないか。
例えば、新施設は、原則、複合施設とする等。
- 現状の呉市の都市基盤をすべて適正に維持していくことは非常に困難な状況である。立地適正化計画はそうした施設や居住を適正に集約する考え方に基づく計画であるため、長寿命化計画や関連計画との取り組みと連携した具体的な記載を検討する。

- 方針について、AI技術などの先端技術に関する記載も必要なのではないか。
- 記載について検討する。

- 土砂災害警戒区域を居住誘導区域に含めると考える理由は何か。
- 本来であれば、居住誘導区域に含めるべきではないという意見はあるが、呉市の地形的特性から土砂災害警戒区域が大部分に指定されている拠点もあることから、区域から除外することは難しいと考える。従って、避難誘導體制を整えることで誘導区域に含むことを許容するとしている。ただし、土砂災害特別警戒区域については、居住を誘導すべきではないと考える。